#せかメン
映画

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト2026

映画をきっかけに
メンタルヘルスについて
一緒に考えてみませんか

開催日時

9/25（金）
19:00-21:30
（上映会後にミニシェアタイムあり）

会 場

四国大学中央棟A307

料 金

参加無料

お申込み方法

下記よりお申し込みください。
https://forms.gle/HD8PHZuZu9CNLGb46

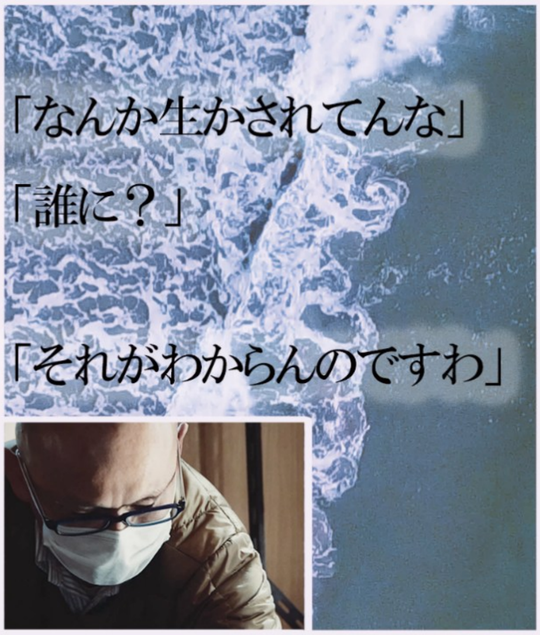
お問い合わせ

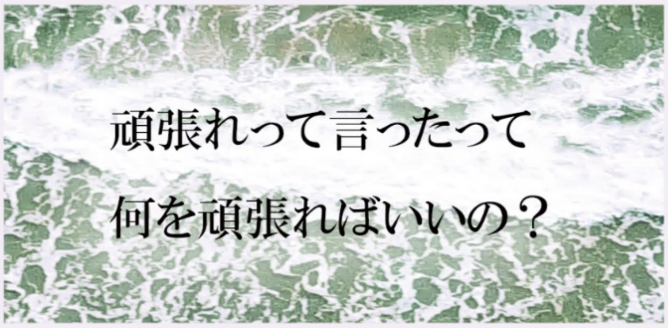
「四国大学で映画を見る」会
メール：shikoku.u.psy.nursing@gmail.com
電話　：090-5913-1022（藤代）

映画をみて
語り合い
ましょう

せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら◀

世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～



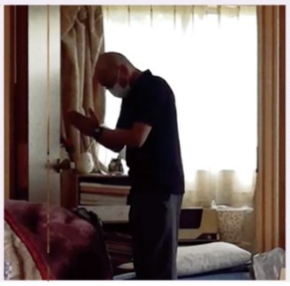


「人間もっと泣かなきゃだめだと思う」

震災と原発事故から13年。福島では、時間を経てから発症する遅発性ＰＴＳＤなど、こころの病が多発していた。若者の自殺率や児童虐待も増加。メンタルクリニックの院長、蟻塚亮二医師は連日、多くの患者たちと向き合い、その声に耳を傾ける。連携するＮＰＯこころのケアセンターの米倉一磨さんも、こころの不調を訴える利用者たちの自宅訪問を重ねるなど日々、奔走していた。

津波で夫が行方不明のままの女性、原発事故で避難中に息子を自死で失い自殺未遂を繰り返す男性、避難生活が長引く中、妻が認知症になった夫婦など、患者や利用者たちのおかれた状況には震災と原発事故の影響が色濃くにじむ。

かつて沖縄で沖縄戦の遅発性ＰＴＳＤを診ていた蟻塚医師は、福島でも今後、同じケースが増えていくのではと考えていた。

ある日、枕元に行方不明の夫が現れたと話す女性。「生きていていいんだという希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは話す。米倉さんは、息子を失った男性にジンギスカンを一緒に焼くことを提案。やがてそれぞれの人々に小さな変化が訪れていく。

喪失感や絶望に打ちのめされながらも日々を生きようとする人々と、それを支える医療従事者たちのドキュメンタリー。